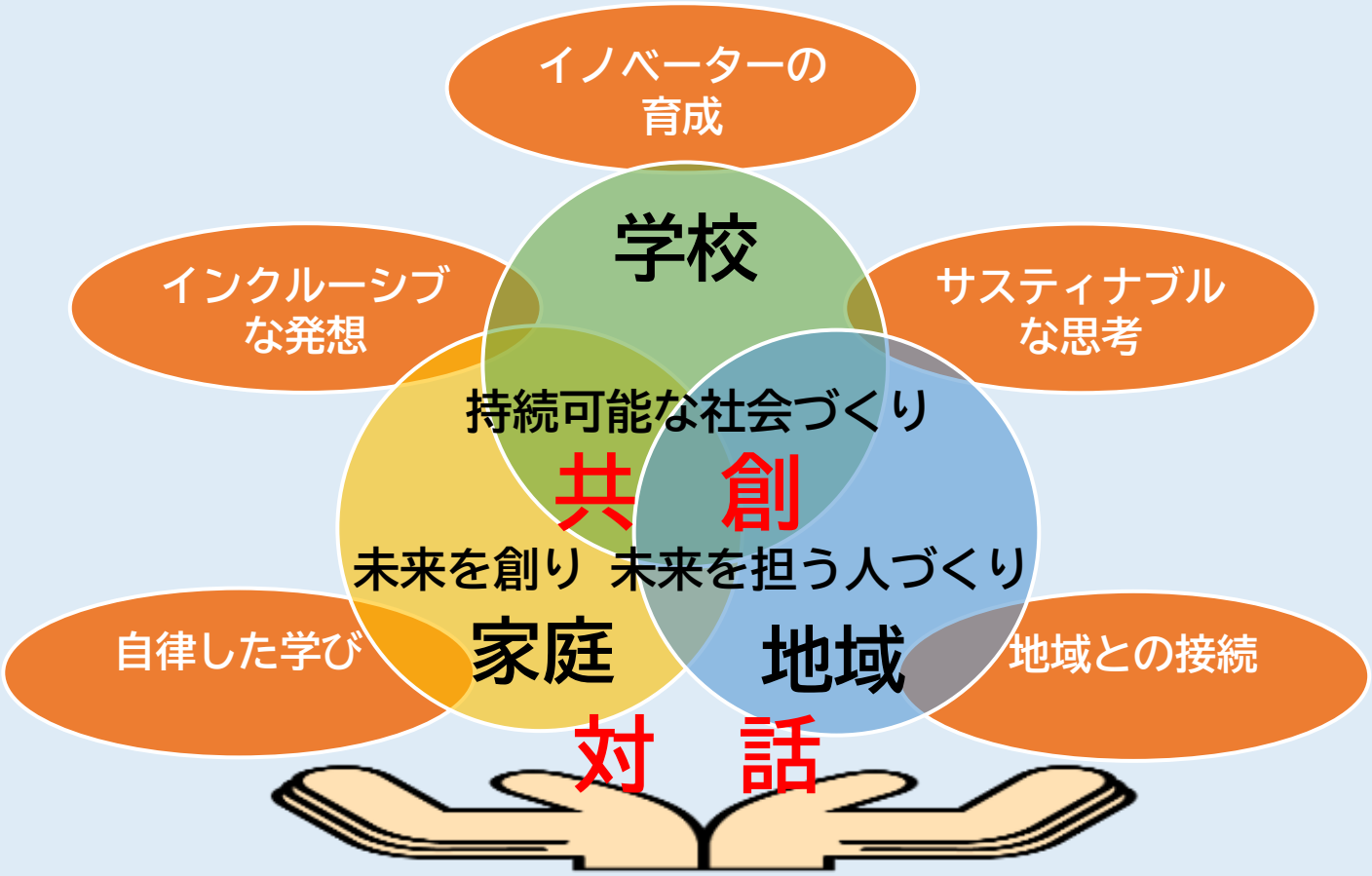
2024年度
明石のコミュニティ・スクール



「対話と共創」のプラットフォーム

コミュニティ・スクール

地域を活かし　地域に生きる

学校づくり ⇆ まちづくり

↓

個人と社会のウェルビーイング

明石市教育委員会事務局学校教育課

なぜコミュニティ・スクールが必要なの？

SDGｓ未来安心都市・明石
～いつまでも　すべての人に　やさしいまちを　みんなで～

改めて教育の目的って？⇒教育基本法を見てみると

（教育の目的）
教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

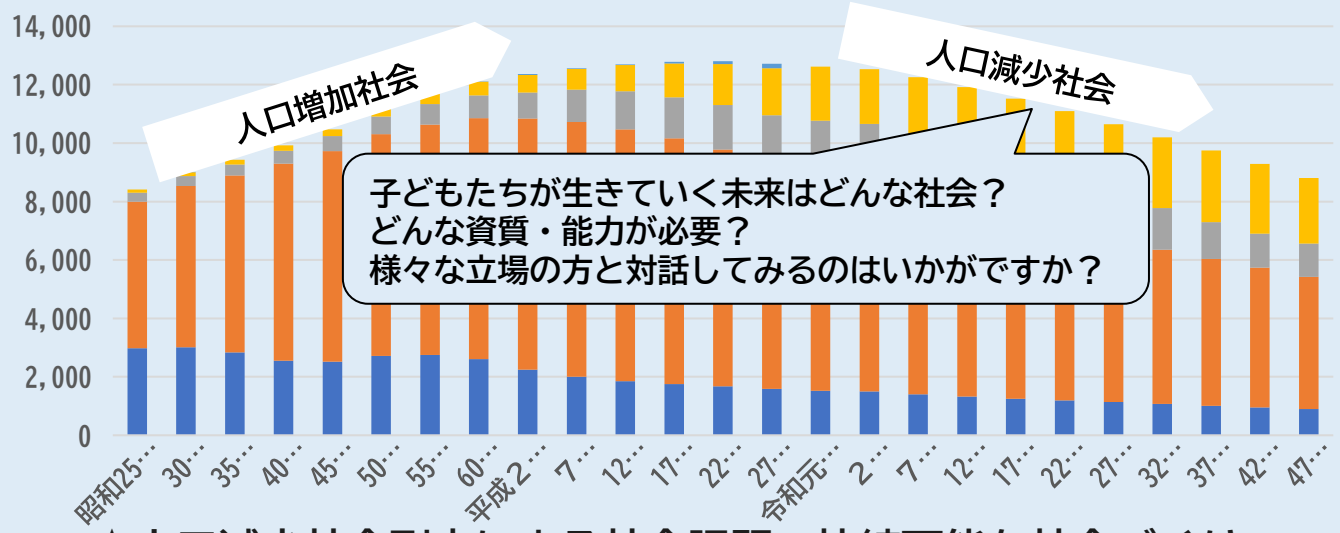
個人と社会のウェルビーイング

「人生100年時代」、「超スマート社会」を生きる学び
“生　涯　学　習”

（生涯学習の理念）
国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

人口減少がもたらす影響と教育との関係は？

より良い社会・持続可能な社会を創るためには？
子どもたちが生きる社会は？　学校にはどんな影響が？　その中で学校の役割は？



★人口減少社会到来による社会課題⇒持続可能な社会づくり

- ○国内需要の減少による経済規模の縮小
- ○財政の危機
- ○労働力不足
- ○コミュニティの担い手の減少
- ○国際競争力の低下
- ○「人生100年時代」
- ○社会保障制度のバランスの崩壊　etc.

教育とは「子どもの今を育てつつ　未来の社会を創る仕事」

VUCAな時代を「生きる力」を育む5つのキーワード

①Innovator（イノベーターの育成）
自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感を持つことができる。

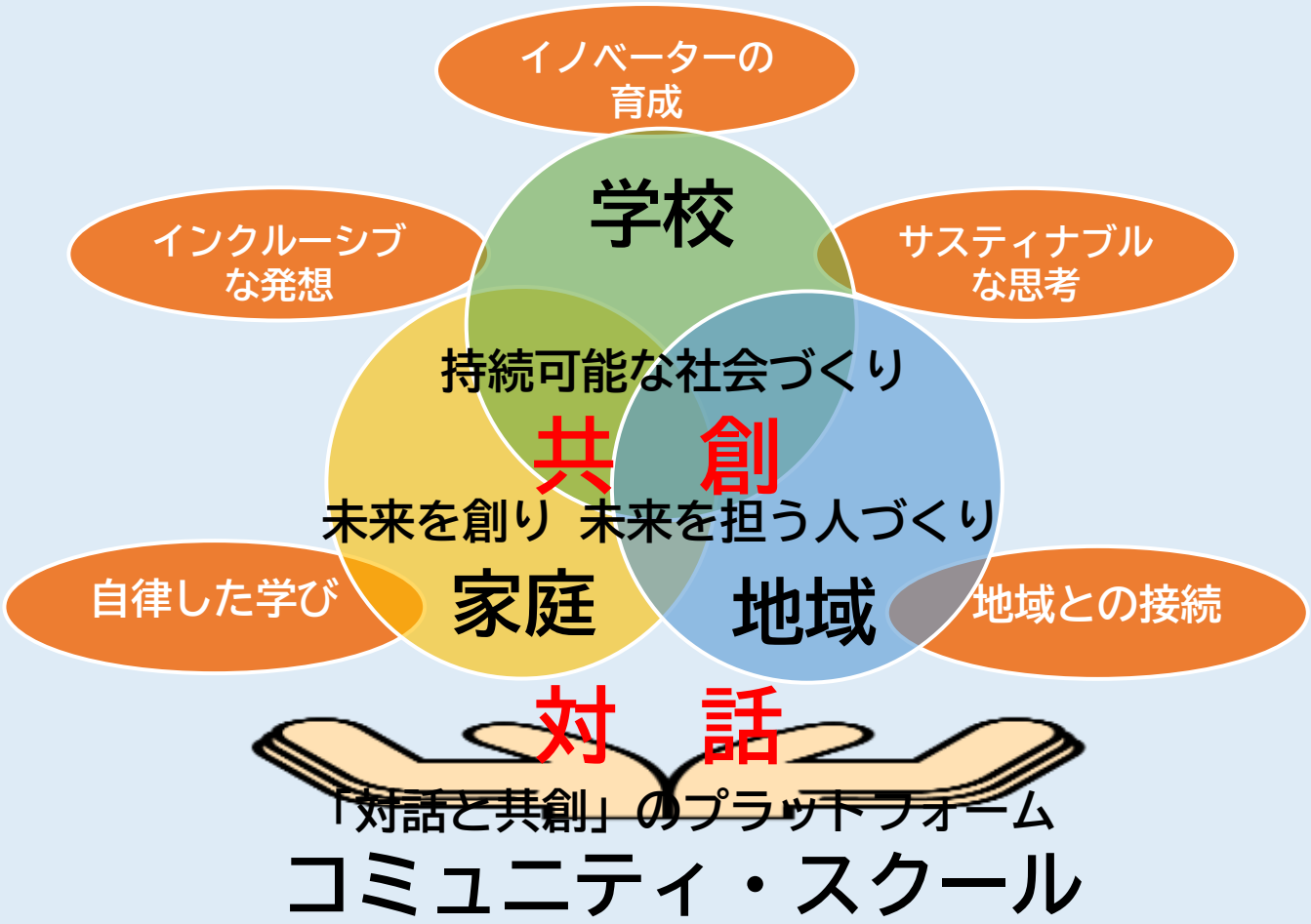
②Inclusive（インクルーシブな発想）
様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感を持つことができる。

③Autonomous（自律した学び）
予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である

④Locality(地域との接続)
子どもたちに、新しい時代を切り拓（ひら）いていくために必要な資質・能力を育むためには、学校が社会や世界と接点を持ちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる、開かれた環境となることが不可欠である。

⑤Sustainability（サスティナブルな思考）
人間一人一人の活動が身近な地域や社会生活に影響を与えるという認識につながり、これを積み重ねることにより、地球規模の問題にも関わり、持続可能な社会づくりを担っていこうとする意欲を持つようになることが期待できる。

引用）新しい学校に必要な5つのキーワードPen4月号より
教育課程企画特別部会論点整理　2030年の社会と子供の未来



対話の始まり　ソクラテス：問いに対する答えを求める過程を重視。

もう一度「生きる力」って

「生きる力」 → **1996年中央教育審議会答申から登場**

我々は、これからの子どもたちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を生きる力と称することとし、これらをバランスよく育んでいくことが重要である。（1996年中教審答申より抜粋）

「生きる力」
認知的スキル
＋
非認知スキル

1996年（平成8年）
「生きる力」誕生

1998年（平成10年）
「自ら学び、自ら考える」

2008年（平成20年）
「思考力・判断力・表現力」

2018年（平成30年）
「社会に開かれた教育課程」

目指してきた30年間　しかし、現状は・・・

非認知スキル
忍耐力・自己抑制・目標への情熱
社交性・敬意・思いやり・自尊心
楽観性・自信等
数値化できない力

なぜ？？

認知的スキル
知識・計算力・思考力等
いわゆる「学力」

非認知面の弱さ

- 物事の考え方
- モチベーション
- ストレス管理
- 社会スキル　等

日常生活・社会活動等に影響が

非認知スキルが育つ環境は

- サポート的な環境
- 自律性を尊重する環境
- フィードバックを提供する環境
- チャレンジングな環境
- 多様な学習体験ができる環　etc.

多様な人と、社会とつながる学び

→ **人は人を浴びて　人になる**

共に創る「未来を創り 未来を担う人」を育む環境に向け

【改めて学校とは】

〇全ての子どもが自立して社会で生き、個人として豊かな人生を送ることができるよう、その基礎となる力を培う場

〇地域コミュニティの拠点として、地域の将来の担い手となる人材を育成する役割

【改めて地域とは】

〇地域は実生活・実社会について体験的・探究的に学習できる場

〇子供たちの学びを豊かにしていく役割

参考）新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた
学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について　審議のまとめ

「未来を創り 未来を担う力」＝「ウェルビーイングを実現する力」

「生きる力」

⇒課題を見出し解決する力

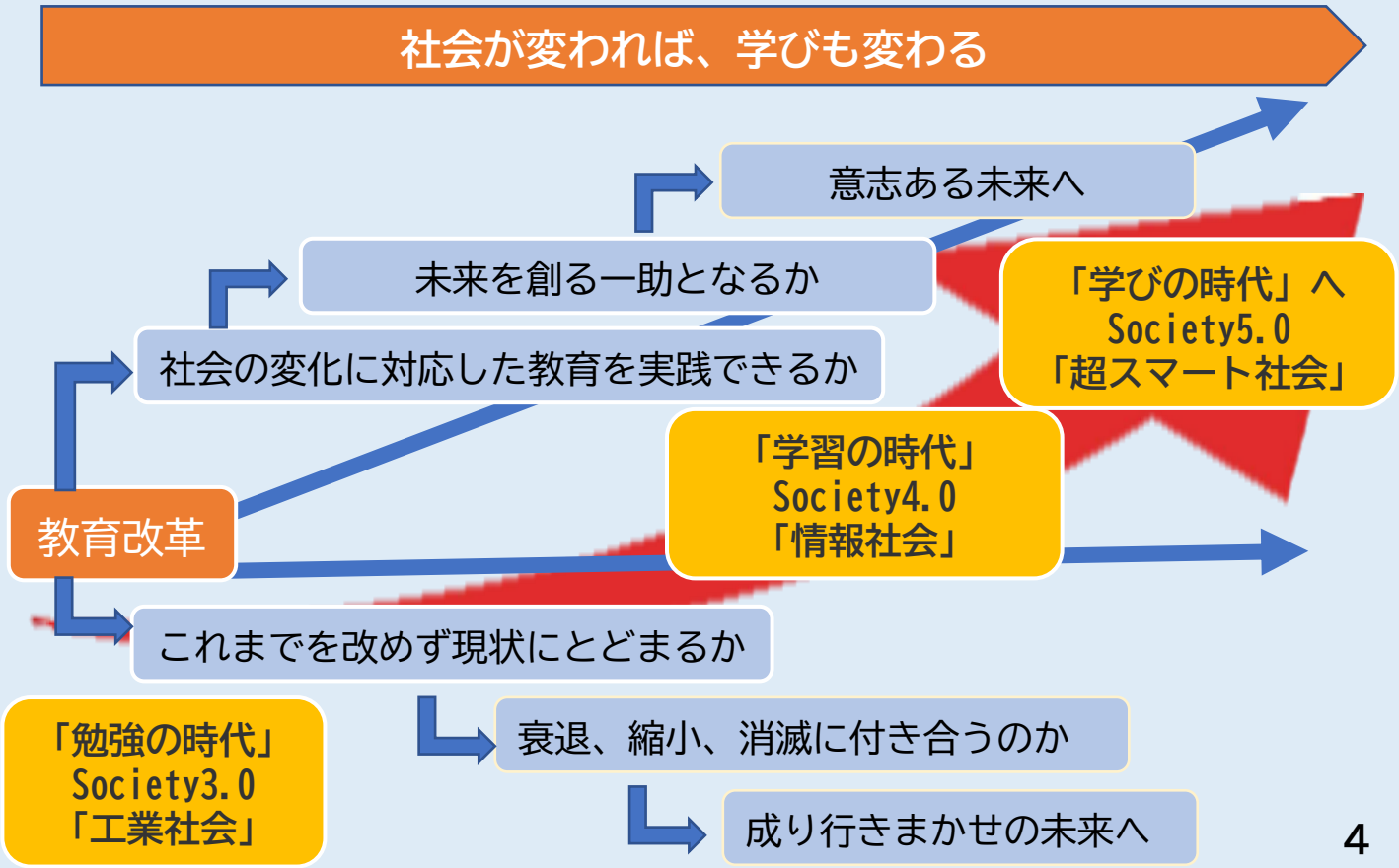
⇒知識・技能の更新のための生涯にわたる学習

⇒他者や社会、自然や環境と共に生きること

多様な人々と関わり、様々な経験を重ね、地域社会とのつながりや信頼できる大人との多くの関わりを通して子どもたちは豊かでたくましく成長し、心も育っていく。

人は人を浴びて 人になる

産業革命以来の「学び」の構造転換



アプローチ１：地域とつながった学びづくり
「地域を活かし 地域に生きるカリキュラム・デザイン」

取組例）松が丘小学校　地域とつながるカリキュラム・デザイン
○ 地域に学ぶ　～地域学習を核とした学び～
○ 地域人材、地域教材の活用

これからの地域や社会を担う子どもたちにどのような力が必要か？

教科学習等で学ぶ
「知識・技能」
「思考力・表現力・判断力」

＋

点数では測れない「学びに向かう力・人間性等」
自尊心・自己肯定感・自立心・自制心・自信等
➡自分に関する力
協調性・共感する力。思いやり・社交性・道徳性等
➡人と関わる力

そのような力を育てるためには？

○多様な人と関わりのある学び
○それぞれが当事者となって、地域や社会を考える学び

社会とつながる学びに！！　　生きる力が育つ学びに！！

「地域に学ぶ」～地域人材・教材の活用
松が丘小学校の地域学習

１年生
「ありがとう」という存在から

６年生
「ありがとう」といわれる存在へ

地域の方・保護者の方・地域の若者
参画

学校教育目標
「共に育つ」

「地域に学ぶ」～地域人材・教材の活用～
松が丘小学びのストリー

１年生「地域につながる」
地域に愛されるステージ
２年生「地域を知る」
地域への気付きを生むステージ
３年生「学校の関わる」
環境という視点で学校づくりに
参画するステージ
４年生「地域につながる」
福祉という視点で地域につながるステージ
５年生「学校・地域の課題を知る」
地域や学校づくりに参画するステージ
６年生「地域に貢献する」
地域と交流し、地域づくりに
挑戦するステージ

地域社会は身近な教材　多様な体験が　深い学びを実現する
人は　人を浴びて　人になる

松が丘小カリキュラム・マップ（学びのストーリー）

「ありがとう」でつながる学校・地域とは、１年生の生活科の単元名が「松が丘愛」であるように、入学してから民生委員さんや、スクールガードの方の見守りに始まり、週１回の「松っ子教室」で地域の方からの愛を一心に受けることができている。低学年で地域の方からの愛を感じ、大切にされていることの気付きが、自己肯定感を高め、６年生になったときには、「ありがとう」と言われる人になりたいと思える子どもに成長することを願っている。そして、地域の方から大切にされた実感が、高学年になったときの「松が丘プロジェクト」の原動力となり、そこで「ありがとう」と言われることで、自己有用感が高まり、卒業してからの地域に対する地域愛・郷土愛につながり、やがて地域・社会を支える人につながると考えている。また、人の役に立った実感は、将来、社会人として働く際にも「人の役に立つ」という視点の土台となると考え考えている。

引用）「令和３年松が丘小本年度の研究について」より

２０２３松小ストーリー　～各学年で目指す子どもの姿～

研究主題：「ありがとう」でつながる学校・地域

サブテーマ：「自分ごと」として考え、よりよい変化を生み出す子の育成

地域の中で生きる、子どもが主人公の「松小ストーリー」～入学から卒業まで～
各学年の「カリマネマップ」は、各学年におけるストーリーのあらすじのようなもの。

1年：愛されるステージ
・学校探検や掃除、給食などのお手伝いで、他学年に大切にされる場面
・松っ子教室を始め、地域の方に大切にされる場面
・いろいろな人に大切にされていることを実感し、「さんくすガーデン」でお花を育て、それをプレゼントすることで、「ありがとう」を伝える場面

2年：身近な人から地域の人へ関わろうとするステージ
身近な人＝保護者、教職員、他学年　　地域の人＝ふれあいガーデン、町協の方
・1年生を学校探検に連れて行くことを通して、大切にされていたことに気付く場面
・ふれあいガーデンで地域の方とサツマイモを育てる体験や、町探検を通して、地域の方に関わろうとする場面
・野菜作りを通して、自分たちから人との関わりを広げる場面

3年生：環境という視点で、地域とつながるステージ
・学校の中庭や地域の自然に目を向け、その不思議や素晴らしさに気付き、身の回りの環境をよりよくする場面
・ホタルプロジェクトに主体的に参加する場面

4年生：福祉という視点で、地域とつながるステージ
・ユニバーサルデザインという視点を獲得し、学校や地域を見つめ直す場面
・「障がいのある方」や「ご高齢の方」から話を聞かせてもらうことで、自分たち自身の見方・考え方をよりよくする場面

5年生：学校づくりに貢献するステージ
・自分たちの学習・学校生活の中から課題を発見する場面
・委員会活動を始めとして、自分たちの力で、学校をよりよくする場面
・6年生の考えたプロジェクトに参加する中で課題を発見し、「松が丘サミット」で、自分たちならではの松が丘プロジェクトを模索していく場面

6年生：地域と交流し、地域貢献をするステージ
・自分たちが考えたプロジェクトを実行し、地域をよりよくする場面
・在校生に伝統として引き継ぎ、卒業する場面

「ありがとう」と言う存在から「ありがとう」と言われる存在へ

カリキュラム・マネジメント　マップ　学年系統図（2023）

学年	メインとなる単元「ありがとう」の割合 言う側	言われる側	段階	対話の対象
6年生	松が丘プロジェクト 平和ってなんだろう クラブづくり		地域に貢献する	まちづくり協議会 地域ボランティア
5年生	松が丘サミット 自然学校 松小すてきプロジェクト		地域について考える	まちづくり協議会 地域ボランティア
4年生	心のバリアフリー報告会 心のバリアフリープロジェクト バリアフリー調査		地域から学ぶ	福祉福祉協議会
3年生	ホタルプロジェクト 中庭のスケッチを紹介 ビオトープ調査隊		地域に関わる	地域ボランティア
2年生	「まつ小マルシェ」から はじまる「味たる銀行」		地域とつながる	1年生 松が丘小学校　保護者 松が丘小学校　教職員
1年生	言葉びる人になろう さんくすガーデン・プロジェクト まつしょうはかせになろう		地域と出会う	幼稚園の年長 スクールガードさん 「松っ子」担当の先生 民生児童委員・2年生

自己にひたり、しっかり自己満足することで、自分を大切にできるよ

研究仮設）
カリマネマップを通し、探究的に学ぶ経験をした児童は、実生活の課題を自ら解決できる。

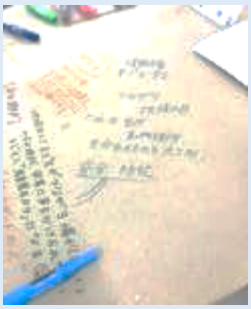
低学年の生活科の中で愛を実感し、中学年から始まる総合的な学習の中で対話的な学びを意図的に仕組み込み、PDCAサイクル【Plan(計画)・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）】を繰り返すことで、現代社会を生きていく上で必要となる課題発見能力や課題解決能力などが身に付き、将来の社会的課題にも立ち向かうことのできる人に成長するのではないか。

学年別カリキュラム・マネジメントマップは参考資料欄に

アプローチ２：つながりから生まれる学びづくり
新たなつながりや価値を生み出す対話

鳥羽小学校運営協議会テーマを決めミニ熟議

二見北小　拡大学校運営協議会



朝霧小　学校＆地域＆保護者で“アサトーク”

鳥羽小地域とコラボ
「鳥羽の歴史と文化～校区を歩く～」

林小地域とコラボ
「林小学校夏季地域探訪」

松が丘小サミット（より良い松が丘を目指して）

林小 HAYASHI井戸端会議
（子どもたちのこと、地域の未来について）

明石ではいろいろなパターンの対話が広がってきています

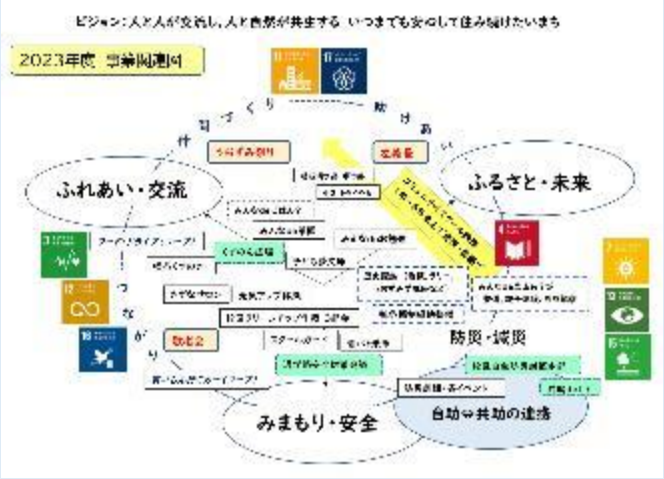
こんな対話も
魚住まちづくり協議会「くすのん広場」での対話から

「くすのん広場」（２ヶ月に１回開催）
「魚住小学校区・全住民対象アンケート」
の結果を踏まえ、みんなのやりたいことを
新しい活動につなげていこうという試みです。

「町の幸福論」の取組から
↓
地域の対話に参加
↓
対話を重ねる中で
↓
魚住まつりへの参加が決定

アプローチ３：地域づくりから生まれる学びづくり

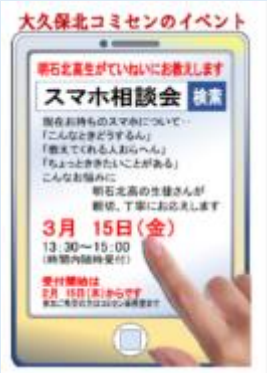
例）魚住小校区のアプローチ



まち協さんと学校の対話の中で、“地域の子どもは地域の宝～長い歴史・文化の残る地域の今、昔を知り、地域に愛着を持ち、地域に貢献しようとする人づくり～”を地域と学校の共通テーマとして、全学年、年間をとおして子どもの「学びづくり」の連携・協働を進めています。

学年ごと、行事ごとの単発的は連携・協働から、小学校６年間を通してゴールを共有した連携・協働に進化しています。

例）大久保北コミセンのアプローチ



大人だけでなく、地域の中・高生が活躍できる場づくりを生涯学習の拠点としての中学校コミセンで始まっています。

★中・高生の地域住民との交流

その１）大久保北中学校科学部
“親子実験教室”

その２）明石北高校生徒による
“スマホ相談会”

その３）大久保北中学校英語部
“英語で俳句を楽しみましょう”

例）「二見北小校区のアプローチ

2　今年度の具体的な取組状況

月	協議会の開催等	内容や活動等	備考（その他、教育活動との連携等）
4月	コミスク事業①	「折り紙で兜や鯉のぼりをつくろう」	こどもカフェ
5月	まちへ出張事業	まちを探検しよう	商店会・寺院
	コミスク事業②	「魚釣りゲームをしよう」	こどもカフェ
6月	コミスク事業③	「大型紙芝居」	こどもカフェ
7月	第１回　学校運営協議会	委員任命・承認・任務確認 学校経営方針の承認 これまでの取組と今年度の方向	まち協・PTA・学校
	コミスク事業④	「お化けを作って遊ぼう」	こどもカフェ
	オープン化事業①②	情報モラル研修①② 「安全なネット使用講習会」	情報技術推進ネット
8月	コミスク事業⑤	「線香花火をしよう」	こどもカフェ
9月	コミスク事業⑥	「認知症講座」	こどもカフェ 二見総合支援センター
10月	オープン化事業③	「介護予防講習」	明石消防署西分署
	コミスク事業⑦	「交通安全教室」	こどもカフェ・明石警察 交通安全推進委員・SC・まち協
11月	交流フェスタ	「敬老感謝の集い」	まち協
	コミスク事業⑧	「スノードームを作ろう」	こどもカフェ
12月	第２回　学校運営協議会	中間報告、学校・校区の諸課題 授業参観	まち協・PTA・学校
	オープン化事業④	情報モラル研修③ 「安全なネット使用講習会」	情報技術推進ネット
	コミスク事業⑨	「サンタさんといっしょに」	こどもカフェ
1月	昔遊び キタザニア	世代を超えて昔遊び体験 ミニ職業体験	まち協 二見北商店会
	コミスク事業⑩	「南京玉すだれに挑戦」	こどもカフェ
2月	第３回　学校運営協議会	本校の教育評価　熟議	まち協・PTA・学校
	コミスク事業⑪	「銀行のお仕事体験」	こどもカフェ・三菱UFJ銀行
3月	感謝の集い	「地域の方に感謝を伝えよう」	スクールガード・きらきらの会・サポートさん
	コミスク事業⑫	「ふたみ体操に挑戦」	こどもカフェ 二見総合支援センター

小学校との連携で、既存のまち協さんの活動をコミュニティ・スクールとして位置付け、地域で子どもを育てるプラットフォームづくりを進めています。

これがコミュニティ・スクールという型があるわけでなく、地域の中で、地域の強みを生かしたアプローチが始まっています

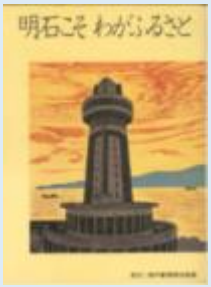
コミュニティ・スクールを支える明石の土壌①

地域との連携・協働をすすめる上で、地域を知る必要があります。
明石にはコミュニティづくりに取組んできた歴史があります。1971年に衣笠明石市長が市政運営の柱として「人間優先のすみがいのあるコミュニティづくり」に取組んだのが明石のコミュニティづくりの原点です。
今では小学校区単位で熱心にコミュニティづくりがすすめられています。

「どうしてコミュニティづくりが大切なの？」
「コミュニティづくりをすすめていくのはだれなの？」
「コミュニティづくりがすすむ地域の中で、学校の役割は？」

そんな対話が当事者意識に支えられた持続可能なまちづくりにつながるのでは？

ふるさとは、わたしたちのくらしの基盤であるとともに、なにものにもかえがたい心の支えでもあります。ふるさとに生まれ、育てられ、そして生きていくわたしたちです。ふるさとから受ける有形無形の影響の深さは、はかり知ることができないと思います。ちょっと自分の心のなかをふり返ってみても。人格形成のうえに果たすふるさとの力の大きさを考えないわけにはいきません。ものの考え方、感じ方の根はふるさとによって培われたものだといえましょう。
それゆえにこそ、ふるさとをたいせつに守り、より望ましい方向に発展させていかねばなりません。わが明石は、自然に恵まれ、ゆたかな歴史をきざみながらすすんできたまちです。むかしから、住みよい土地として人々に親しまれてきました。
この土地に生きた祖先の感情や考え方が、今日の明石というまちを育ててきのです。それらをさらに発展させ、子孫に引き継いでいかねばなりません。そが、いま明石に生きているわたしたちの義務といえましょう。緑と太陽のこの明を、さらに健康としあわせを約束してくれる住みよいまちにつくりあげていきたものです。そのためには、明石がどんなにしておいたってきたのか、いまのようはどうであるかを知ることがたいせつです。・・・



引用）「明石こそ わがふるさと」発行：神戸新聞総局昭和47年刊

1972年、当時の衣笠明石市長が「明石こそ わがふるさと」に書かれたはしがきからの抜粋です。「地域を学ぶ」意味が見えてくるのでは？

明石が目指すまちづくりを支える教育の役割

「対話と協働」による明石市の目指すまちづくり

SDGｓ未来安心都市・明石
～いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで～

教育の役割

子どもの今を育てつつ　未来の社会を創る

人が育つ循環

コミュニティづくり ⇆ コミュニティ・スクールづくり

コミュニティ・スクールを支える明石の土壌②

知っているようで、知らない地域のこと

小学校や中学校にあるコミュニティ・センターも関係があるのですか？

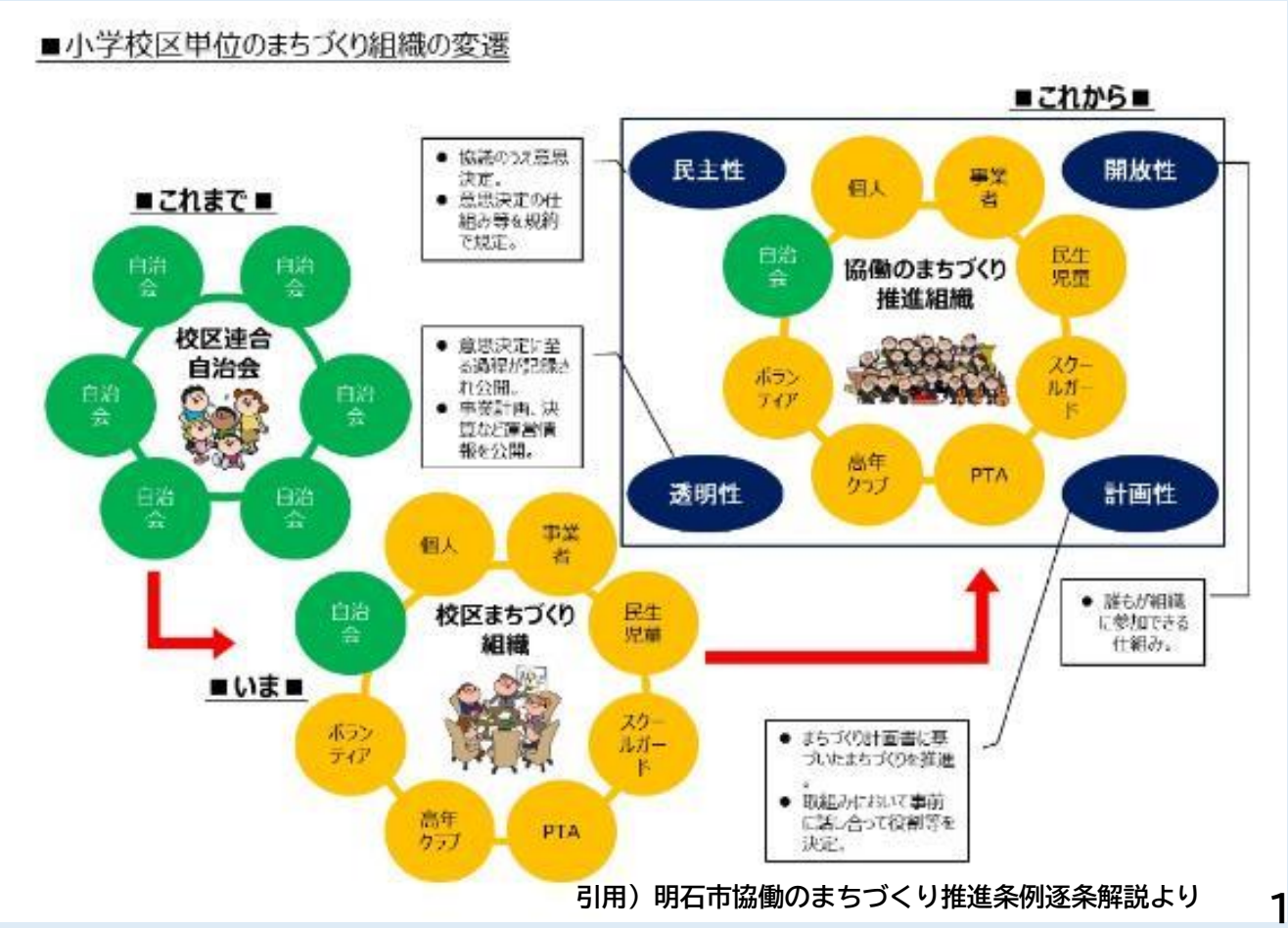
当時の明石市長が「人間優先の住みがいのあるコミュニティづくり」を市政運営の柱とし、1972年に全国に先駆けて大蔵コミュニティ・センター（以下コミセン）と大久保コミセンを開設しています。

中学校コミセンは、市内13中学校区に設置され、「地域の生涯学習の拠点」になっています。

小学校コミセンは、市内28小学校区に設置されています。2010年に施行された、「明石市自治基本条例」により、小学校区単位の「校区のまちづくりの拠点」になっています。

よく「まちづくり協議会（まち協）」という言葉を耳にするのですが？

明石市では、市内の28小学校区の全てで、〇〇まちづくり協議会の名称で「校区まちづくり組織」がまちづくりを推進しています。この「校区まちづくり組織」が、①民主性②開放性③計画性④透明性を備え、より多くの人と協力しながら地域での課題・問題に総合的に対応できる「協働のまちづくり推進組織」へのステップアップを目指しています。
（当事者意識が支えるまちづくり）



引用）明石市協働のまちづくり推進条例逐条解説より

コミュニティづくり ⇆ コミュニティ・スクールづくり 連携・協働のイメージ

連携・協働とは➡立場の異なる団体・個人が連絡を密に、共通の目的にむけ、それぞれの役割を果たしていく

連携	団体・個人が連絡を取り合って、一つの目的のために、物事にあたること			
協力	団体・個人がある目的に向かってそれぞれの力をあわせること			
		立場	活動	目的
共同	複数の人や団体が、同じ目的のために一緒に事を行ったり、同じ条件・資格で関わったりすること	同じ	同じ	同じ
協同	複数の人または団体が、力を合わせて物事を行うこと	異なる	同じ	同じ
協働	同じ目的のために、異なる立場のものが協力して共に働くこと	異なる	異なる	同じ

“協力・共同” 的発想から **対話** “連携・協働” へ

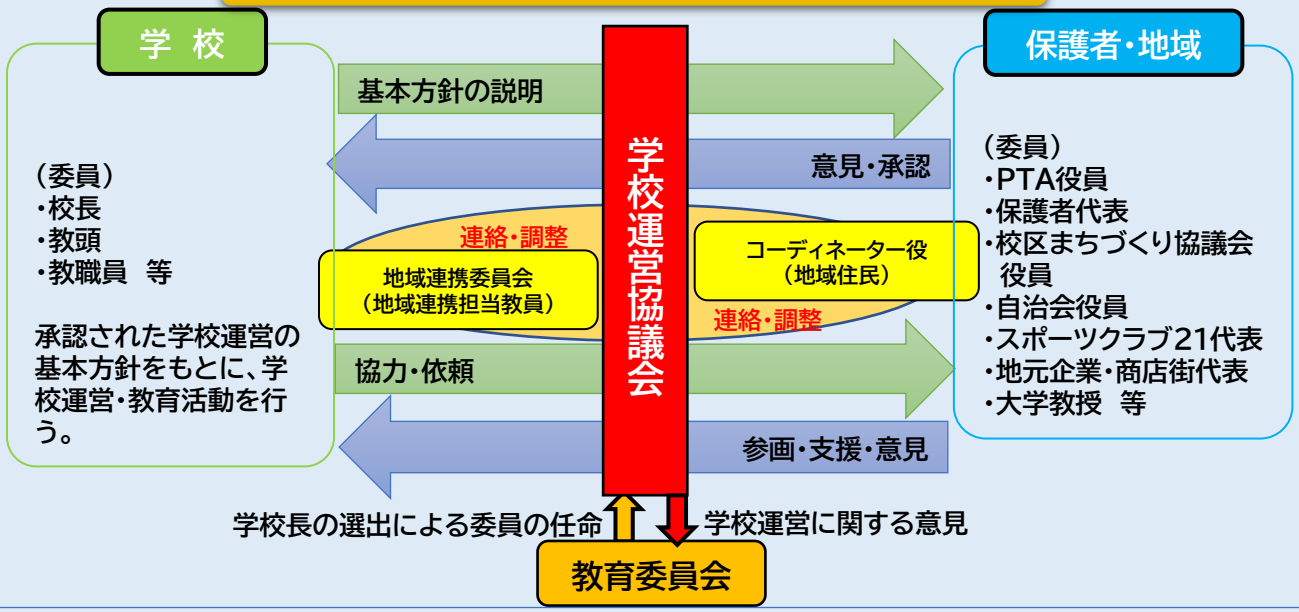
協働のまちづくり推進組織 ⇆ コミュニティ・スクール

連携・協働

参考）明石市協働のまちづくり推進条例逐条解説

資料）

国が考えるコミュニティ・スクール（学校運営協議会）



コミュニティ・スクール＝「学校運営協議会」が設置されている学校

【学校運営協議会の主な役割】（「明石市学校運営協議会の設置等に関する規則」より）

〇校長が作成する学校運営の基本方針の承認をすること（必須）

〇学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる。

〇教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる。（それぞれの学校の持つ課題解決に向けての一般的な意見）

よりよい学校づくりについて、学校・保護者・地域が話し合います。

資料）

コミュニティ・スクール進捗状況

全国の取組状況（令和4年5月1日現在

コミュニティ・スクール導入状況（学校数）

・全国15,221校（令和4年5月1日）

➡全国18,135校（令和5年5月1日）

幼：導入率14.0%　小：導入率58.6%

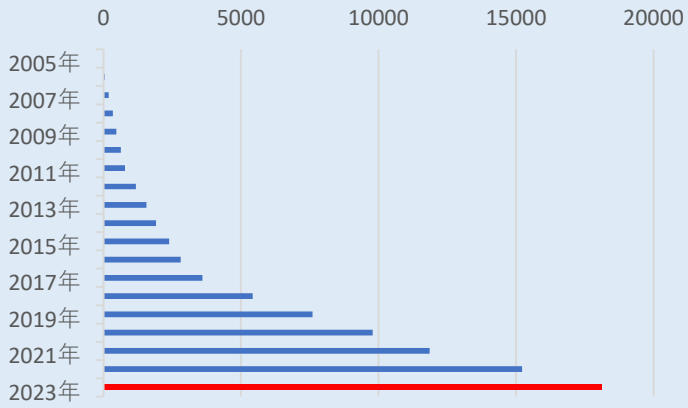
中：導入率57.3%

義務：導入率75.2%　中等：導入率22.9%

高校：導入率33.2%　特支：導入率45.7%

全国の学校のうち52.3%がコミュニティ・スクールを導入

全国公立学校コミュニティ・スクール導入校数



明石市の取組状況

2017（平成29年）年度（取組開始）

〇文科省「学校・家庭・地域連携協力推進事業」の実施

・コミュニティ・スクール モデル校の設置（松が丘小学校）

学校運営協議会設置、会の開催（年間4回）

・地域連携担当教員の配置・協働に関する研究

・明石市CS検討会議の設置、開催（年4回）

2018（平成30年）年度

〇コミュニティ・スクール モデル校の拡充（松が丘小学校、朝霧小学校、二見北小学校）

2019（令和元年）年度

〇市立小学校全校でコミュニティ・スクールを導入

・「学校評議員制度」を廃止し「学校運営協議会」を設置

2020（令和2年）年度

〇市立中学校全校でコミュニティ・スクールを導入

・「学校評議員制度」を廃止し「学校運営協議会」を設置

2021（令和3年）年度

〇高丘小中一貫教育校が開校

子どもが育つ　大人も育つ　地域も社会も育つ

新たな学校園づくり

参考資料）

教育用語を
「自分たちの言葉」にしていくために

「令和の日本型学校教育」「主体的・対話的で深い学び」「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」「指導と評価の一体化」など、学習指導要領や教育政策文書の言葉のオンパレードで、教師自身の実感と経験に基づいたアクチュアルな言葉が希薄になっている。

学習指導要領や政策文書を理解しておくことは重要だが、行政文書の言葉は性格上、曖昧で抽象的であり概念はしばしば意味不明である。行政文書の言葉が過剰に浸透すると、教師たちは自らの教育を語る言葉を喪失し、実践の意味はうつろになり仕事はむなしいものになってしまう。日本の教師たちは借り物の言葉で語り、自ら教育を語る言葉を失っている。日本の教師たちは個性と多様性を失って全体主義へと突き進んでいるのではないだろうか。自らの言葉を失った教師たちは、教育の思想や哲学を形作ることも、実践の理論を磨き上げることも、自らを自律的専門家として成長させることも不可能である。

今、教室の小さな物語を語り合うことを、すべての教師たちに推奨したい。教師の内側の豊かな言葉は、教室の小さな物語を語り合うことによって紡ぎ出される。

― 教室の小さな物語の復権（2023 佐藤）から引用

理解しているようで、共有しているようで・・・
「自分たちの言葉」にしていくのが「対話」

２０２３松小ストーリー　～各学年で目指す子どもの姿～

研究主題：「ありがとう」でつながる学校・地域

サブテーマ：「自分ごと」として考え、よりよい変化を生み出す子の育成

地域の中で生きる、子どもが主人公の「松小ストーリー」～入学から卒業まで～
各学年の「カリマネマップ」は、各学年におけるストーリーのあらすじのようなもの。

1年：愛されるステージ

・学校探検や掃除、給食などのお手伝いで、他学年に大切にされる場面
・松っ子教室を始め、地域の方に大切にされる場面
・いろいろな人に大切にされていることを実感し、**「さんくすガーデン」でお花を育て、それをプレゼントすることで、「ありがとう」を伝える場面**

2年：身近な人から地域の人へ関わろうとするステージ

身近な人＝保護者、教職員、他学年　　地域の人＝ふれあいガーデン、町協の方
・1年生を学校探検に連れて行くことを通して、大切にされていたことに気付く場面
・ふれあいガーデンで地域の方とサツマイモを育てる体験や、町探検を通して、地域の方に関わろうとする場面
・**野菜作りを通して、自分たちから人との関わりを広げる場面**

3年生：環境という視点で、地域とつながるステージ

・学校の**中庭**や地域の自然に目を向け、その不思議や素晴らしさに気付き、身の回りの**環境をよりよくする場面**
・ホタルプロジェクトに主体的に参加する場面

4年生：福祉という視点で、地域とつながるステージ

・**ユニバーサルデザイン**という視点を獲得し、学校や地域を見つめ直す場面
・「障がいのある方」や「ご高齢の方」から話を聞かせてもらうことで、自分たち自身の**見方・考え方をよりよくする場面**

5年生：学校づくりに参画するステージ

・自分たちの学習・学校生活の中から課題を発見する場面
・委員会活動を始めとして、自分たちの力で、**学校をよりよくする場面**
・6年生の考えたプロジェクトに参加する中で課題を発見し、「松が丘サミット」で、自分たちならではの松が丘プロジェクトを模索していく場面

6年生：地域と交流し、地域貢献をするステージ

・自分たちが考えたプロジェクトを実行し、**地域をよりよくする場面**
・在校生に伝統として引き継ぎ、卒業する場面

「ありがとう」と言う存在から「ありがとう」と言われる存在へ

参考資料：「松小ストーリー」入学から卒業まで

カリキュラム・マネジメント　マップ　学年系統図(2023)

学年	メインとなる単元 「ありがとう」の割合 言う側　　言われる側		段階	対話の対象
６年生	松が丘プロジェクト 平和ってなんだろう クラブづくり		地域に貢献する	まちづくり協議会 地域ボランティア
５年生	松が丘サミット 自然学校 松小すてきプロジェクト		地域について考える	まちづくり協議会 地域ボランティア
４年生	心のバリアフリー報告会 心のバリアフリープロジェク バリアフリーを調査		地域から学ぶ	朝霧福祉協議会
３年生	ホタルプロジェクト 中庭のステキを紹介 ビオトープ調査隊		地域に関わる	地域ボランティア
２年生	「まつ小マルシェ」から はじまる「ほたる銀行」		地域とつながる	１年生 松が丘小学校　保護者 松が丘小学校　教職員
１年生	昔遊び名人になろう さんくすガーデン・プロジェクト まつしょうはかせになろう		地域と出会う	幼稚園の年長 スクールガードさん 「松っ子」教室の先生 民生児童委員・2年生

自己にひたり、しっかり自己満足することで、自分を大切にできるよ

第１学年　カリキュラム・マネジメント　マップ 2023

時期	各教科・総合の計画とリンク　※単元ごとにおおよその時間数を記入すること。
5	国語 コミュニケーションの基礎 「ひとつながることば」 話題を決めて話し合う 「みんなにはなそう」:学校クイズ大会 いくぞ！がっこうたんけんたい」 ～まつしょうはかせになろう～ ・２年生や友達と学校探険 ・学校ではたらく人へインタビュー ・給食室探検（給食のない日） １年だけで、「がっこうたんけん」をして見つけた人・もの・ことをタブレットで撮影し、国語につなげる。
6	「げんきにそだてわたしのはな」 アサガオの栽培活動 たね（６年）やリース（家）をプレゼントしよ
7	道徳 よりよい学校生活を知る 「がっこうだいすき」 場に応じた挨拶の仕方 「あいさつのことば」 松小デジタルクイズを作る 「なつとなかよし」 ・夏見つけにガーデンへ行く ・あそびばにでかけよう 「ひろがれえがお」 ～ありがとうをとどけよう～ ・お手伝い体験 ・ゲストティーチャー
9	国語 相手の発言を受けて話をつなぐ 「なにに見えるかな」 伝えたいことを明確に書く 「はっけんしたよ」 相手に伝わるように工夫して話す 「すきなきょうかはなあに」 校内の自然に目を向ける 校外学習（王子動物園）
10	道徳 周りの人が笑顔になる良さに気付く 「みんなえがおに」 家族の大切さに気付く 「おとうさんありがとう」 「ありがとう」を伝える手段を学ぶ 「生きものだいすき」 飼育小屋で ニワトリ・カメとのふれあい
11	「ありがとうの会」を開く ・地域の方へ感謝の気持ちを伝える （松っ子教室・民生委員・スクールガード）
12	図工 チョークアート（さんくすガーデン） えがおあふれる　がっこうにしよう 「ひろがれえがお」２ 「あきとなかよし」 ・校外へ秋見つけに行く ・さつまいも収穫 ・つるを使ってリース作り 秋の産物で作品作り
1	国語 伝統的な昔話文化に親しむ 「むかしあそびをたのしもう」 自分の考えを明確に書く 「おはなしをかこう」 出来事の順に話す 「しょうがっこうのことをしょうかいしよう」 「ふゆとなかよし」 ～むかしあそびめいじんになろう～ ・校内へ冬見つけに行く ・昔遊び体験 地域の昔遊び名人に弟子入りしよう。 道徳　伝統文化に親しむ 「にほんのぎょうじ」
2	★楽学交祭 ～昔遊びやさんに新１年生を招待する。～
3	★卒業を祝う会 体育 「ありがとう」をダンスで表現しよう。

参考資料）松が丘小第２学年　カリキュラム・マネジメント　マップ

第2学年　カリキュラム・マネジメント　マップ 2023

時期 ／ 各教科・総合の計画とリンク

国語

- すきなこと、なあに
- こんなことをしている
- ⇩スピーチ（年間）
- サツマイモのそだて方
- かんさつしたことを書こう
- うれしくなることばをあつめよう
- あそび方をせつ明しよう
- たからものをしょうかいしよう
- 「ありがとう」をつたえよう
- おばあちゃんに聞いたよ
- この人をしょうかいします
- すきな場しょを教えよう

算数

- ひょうとグラフ
- 長さ
- 1000をこえる数

生活

「まつっ子マルシェ」からはじまる「ほたる銀行」

課題設定
「やさいを作ってホタルぼ金にしよう！」
・３年総合的な学習に向けて，自分たちでできる貢献の仕方を考える

5

大きくそだて　わたしの野さい
～地域交流第1弾～
・夏野菜苗・サツマイモ苗植え体験
・夏野菜育て
ふれあいガーデンの方にきょう力してもらおう
（世話の仕方、肥料のまき方・時期など）

1年生をむかえよう
学校内の職員や場所の「すてき」を見つけ、知る。
1年生との学校探検で、1年生に伝える。

6

みんな生きている
「中庭すてきプロジェクト」プロローグ1
ホタルについて知る。
マルシェ宣伝練習をする。

7

まつっ子マルシェをひらこう
～まずは先生方に～
うり上げ金をほたるぼ金に
・いつ開くと効果的？
・野菜の良さを伝えるためには？
・金額に見合う量（個数）は？

9

すくすく秋やさい
・さつまいもの収穫
・秋野菜、冬野菜　苗植え

町のすてきをつたえたい
～地域交流第2弾～
・地域と出会い、松が丘を知る
・松が丘の町の「すてき」を見つけ知る。
・お店で働く人やお客さんにインタビューする。

10

せかいでひとつの
わたしのおもちゃ
～おもちゃランドをひらこう～

11

サツマイモ収穫パーティー
（11月）
～地域の人との交流第３弾～

まつっ子マルシェをひらこう　～地域交流第4弾～
うり上げ金をほたるぼ金に
・いつ開くと効果的？
・野菜の良さを伝えるためには？
・金額に見合う量（個数）は？

12

1

「中庭すてきプロジェクト」
プロローグ２
・ホタルの一生を調べる
・よりよいすみかは？食べ物は？
・ホタルの幼虫　放流

これまでのわたし　これからのわたし

2

ありがとうの会～ほたる銀行　ほうこく会～
（2／4オープンスクール）
～地域の人との交流第5弾～
伝えたい感謝の気持ちを表現,発表する
・ホタルについて調べたことを発表する
・1年間関わってくれたことへの感謝を伝える
・集まった募金額の報告

楽学交祭
【まつっ子バザーをひらこう！！】
～お世話になった方を招待しよう～
・保護者や地域の方へ、出店依頼をする
・2年生は、冬野菜の出店や、おもちゃランドで遊んでもらう

3

図工・音楽・体育・他

- 道徳「あいさつ」
- 道徳「虫がだいすき」
- 道徳（OS 9/15）
- 体育「表現遊び」
- 図工「秋のかざり」 松ぼっくりペイント
- ・リース ・松ぼっくり ・秋冬野菜
- 道徳「せい長かいだん」「いまのぼく、むかしのぼく」

第３学年　カリキュラム・マネジメント　マップ　２０２３

時期	各教科・総合の計画とリンク
5	総合　松が丘の町を調査！ ～校区探検～ 社会 ・学校のまわり 算数 ・時こくと時間
	総合　松が丘ネイチャープロジェクト
6	総合　中庭のすてきを見つけよう！ ・中庭（ビオトープ）には、どんな植物があるか、どんな生き物がいるか。 ・お気に入りの生きものを見つけてロイロノートやレポートにまとめよう。 ・松が丘小学校でホタルが見られるのはなぜかを調べよう。 ・すてきな自然を守っていく方法を考えよう。（中庭清掃） 理科 ・生き物をさがそう ・たねをまこう ・チョウをそだてよう ・植物の育ちとつくり
7	国語 ・調べて書こう、わたしのレポート ・ローマ字 ・メモを取りながら話を聞こう ・グループの合言葉をきめよう
9	総合 ～中庭ガイドブックを作ろう～ ・ゲストティーチャーに松が丘公園の自然についてインタビューしよう。 ・三木山森林公園を散策し、素敵な自然を広めていく方法を考えよう。 ・中庭すてきガイドブックを作ろう →ガイドブックはブックスポットに置く 環境体験学習 ・三木山森林公園にて自然散策
10	社会 ・アサヒ飲料見学 道徳 ・ベランダのツバメ ・公園のひみつ
11	理科 ・こん虫の観察 ・植物の一生
12	総合中庭すてきポスターを使って広げよう！ ・中庭のすてきをポスターにしよう。 ・作ったポスターを使って中庭のすてきを伝えよう。 地域の方や全校生を招いて、自分たちで考えた方法でこれまでの学習のまとめを発表 （クイズ　スタンプラリー　中庭ガイドなど） 特別活動　楽学交祭 国語 ・グループの合言葉を決めよう 外国のことをしょうかいしよう ・案内の手紙を書こう ・言葉で伝えあおう ・自分の考えを伝えよう
1	
2	
3	松小ホタルプロジェクト ・ホタルの幼虫　放流 （ホタル募金プロジェクトを行った２年生と合同で実施） ・ホタルの豆知識カード作成と招待状を作成 特別活動 ・一年間をふりかえろう （キャリアパスポート）

第４学年　カリキュラム・マネジメント　マップ　２０２３

時期	各教科・総合の計画とリンク
6	テーマ：『みんなでつなごう幸せの“わ”　～相手を思いやる、やさしい心で～　』 総合　導入：学年総合「福祉ってなあに？」　→　『しあわせ、より良い生き方』 ・「わたしの妹」読み聞かせ 相手の声に耳を傾け、一緒に考え行動すること
7	総合・「盲導犬クイール」・ジェンダー平等講座 ・明石市立図書館の本（調べ学習）・インターネット（調べ学習） 国語 「グループにまとめて整理しよう」 「たしかめながら話を聞こう」
8	総合・バスの乗り方講座（車椅子）9/6 ・オレンジサポーター講座 9/28 ・身体障害者の方の話（バリアフリー教室） ・手話体験 10/13 ・点字体験 10/19 アイマスク・車椅子体験 10/26 総合 パラリンピック競技を体験しよう 「I' m POSSIBLE」「ボッチャ」 「シッティングバレー」
9	**学校や松が丘の町のバリアフリーについて調べよう。** ・地域ごとに児童が集まり、自分たちの地域を福祉の視点で良いところ、改善点を話し合う。 実際に地域に行き、自分たちの目で見て確かめる
10	松が丘の町は幸せな町（バリアフリー）になっているだろうか。
11	算数「調べ方と整理のしかた」 ・アンケート（地域の方は松が丘の町の何に困っているのか）　・集約→棒グラフに 国語 「お願いやお礼のお手紙を書こう」 道徳 「心と心のあくしゅ」 総合 「地域の方の話を聞こう」 障害のある方の話
12	総合 「自分たちが力になれることはあるかな」【総合・中授業】 ・理想を話し合う　→　できることを話し合う　→　実際に行動することを話し合う （心のバリアフリープロジェクト）
1	心のバリアフリープロジェクト始動！！ ・パラスポーツイベント　・校区安全マップ ・ポスターでの呼びかけ　・ボランティア活動 ・署名運動、募金活動　・手話覚える　など **心のバリアフリー宣言**
2	おうちの方や地域の方、在校生に、心のバリアフリー宣言をしよう。 楽学交祭：福祉体験コーナー 国語 「調べたことをほうこくしよう」
3	**心のバリアフリー、報告会を開こう。**【３年生・５年生・保護者・地域】 心のバリアフリーを実践できる人に。はじまりは相手を思いやるやさしい心をもつこと

見る・聞く⬇知る

調べる・体験する⬇分かる・考える

発信・行動⬇評価・改善

第５学年　カリキュラム・マネジメント　マップ２０２３

時期	各教科・総合の計画とリンク
5	テーマ：『レベルアップすてきプロジェクト　～人・学校・地域の成長～　』
	学校のレベルアップ
	１学期：レベルアップすてき松小！　～自分たちが誇れる学校に～
6	・松小のすてきな所、もっとレベルアップするために自分たちにできることを考える。 ①自分たちで考える。 ②教師や他学年の児童にインタビューを行い分析。 国語「知りたいことを聞き出そう」 ・意図を明確にしてインタビューを行う
7	・５年生の思いと他学年や先生の思いをマッチングさせる。 ・松小をレベルアップさせ、もっとすてきにするためのプロジェクトを考える。 ・委員会活動で行なえる活動は委員会で行う。 理科「めだかのたんじょう」 ・プロジェクトのPDCA ・プロジェクトは年間を通して実施 ・無理なく継続できるプロジェクトに 特活「プール清掃」
8	自分→学年のレベルアップ
9	２学期：レベルアップすてき５年！　～自分で考えて行動できる学年に～
10	・自然学校を成功させよう 学年スローガン 「○○○○○○○」（子どもたちで考える） 中庭ベンチ作り できたこと、達成してきたことを廊下掲示 可視化→成功体験 終わりの会でのスローガンふり返り 認め合い・高め合い ・自分→学年のレベルアップ（＝自考力 就学時健康診断お手伝い 国語「環境問題について報告しよう」 「さまざまな資料を活用しよう」 「伝えたい、心に残る言葉」
11	◆自分で考えて動くことができる子に ◆自分の近くにいる友達に優しくできる子に ◆周りを見て、自分の出来ることを考えて行動できる学年に
12	・４年生に報告会をしよう（学んだことを伝えよう） 【大学連携】 アンケートの取り方を教えてもらう
1	３学期：レベルアップすてき松が丘！　～戻って来たいと思う地域に～
	地域のレベルアップ
	松小のためにできること⇒地域のためにできること ①自分たちで考える。 ②6 年生の思いや地域の思いを引き継ぐ。 国語「反対の立場を考えて意見文を書こう」 算数「帯グラフ、円グラフ」「割合」 ◆松が丘サミットに向けての準備・資料作成・提案準備
2	松が丘サミット（地域の方と意見交流）２月下旬 児童会役員選挙（2/　　） ◆地域の方の意見を受けて、自分たちの思いと地域の方の思いを合わせる
3	松が丘プロジェクト準備（3/　～）※6年生で実施 レベルアップすてき松小プロジェクトを受けて委員会立ち上げ
	６年生へ向けて！最高学年としての意識！行動！さらなるレベルアップ！

第６学年　カリキュラム・マネジメント　マップ 2023

時期　各教科・総合の計画とリンク

4
5

国語
「気持ちよく対話を続けよう」
「友達の意見を聞いて考えよう」
「場面に応じた言葉遣い」
→ 学年テーマづくり（学年通信）

総合
委員会オリエンテーション 4/13
クラブ設立に向けて
クラブオリエンテーション 5/11
→ クラブ始動 5/24

平和って何だろう
・課題設定
・修学旅行計画
・調べ学習

社会
「長く続いた戦争と人々のくらし」「新しい日本、平和な日本」

6
「ヒロシマのうた」

修学旅行 6/10（土）.11（日）

松プロ計画・準備・発信

平和集会（児童朝会）7/14(金)

7
8
9

国語
「原因と結果に着目しよう」②
「町の幸福論」⑪
～ｺﾐｭﾆﾃｨﾃﾞｻﾞｲﾝを考える～
オープンスクール 9/15
「防災ポスターを作ろう」⑦
「インターネットの投稿を読み比べよう」⑦
「話し合って考えを深めよう」⑥
（納得解のつくり方）

①松が丘プロジェクト始動 6/30（金）
よりよい松が丘にするための
「松が丘プロジェクト再構築」

計画【P】 ②松プロ 9/22（金）
実行【D】 ③松プ 10/27(金)
④松プロ 12/1（金）
評価【C】 ⑤松プロ 1/26(金)
調整【A】 ⑥松プロ 3/1(金)

算数
「資料の調べ方」
地域アンケートの集約
グラフ化しニーズを分析

家庭科
「クリーン大作戦」④
「共に生きる地域での生活」⑤
「持続可能な社会を生きる」④

10
体育大会 10/7

11
音楽会 11/23
合唱力

大学　企業

12
1
2
3

図工
～卒業制作～
ふれあいガーデンのパネル
リニューアルプロジェクト

6年間の学びの集大成を表現する
・卒業アルバム
・門出のことば

5年生への引継ぎ会

各教科・学活
楽学交祭に向けての準備
各クラスの出店調整
委員会ベースの実行委員会

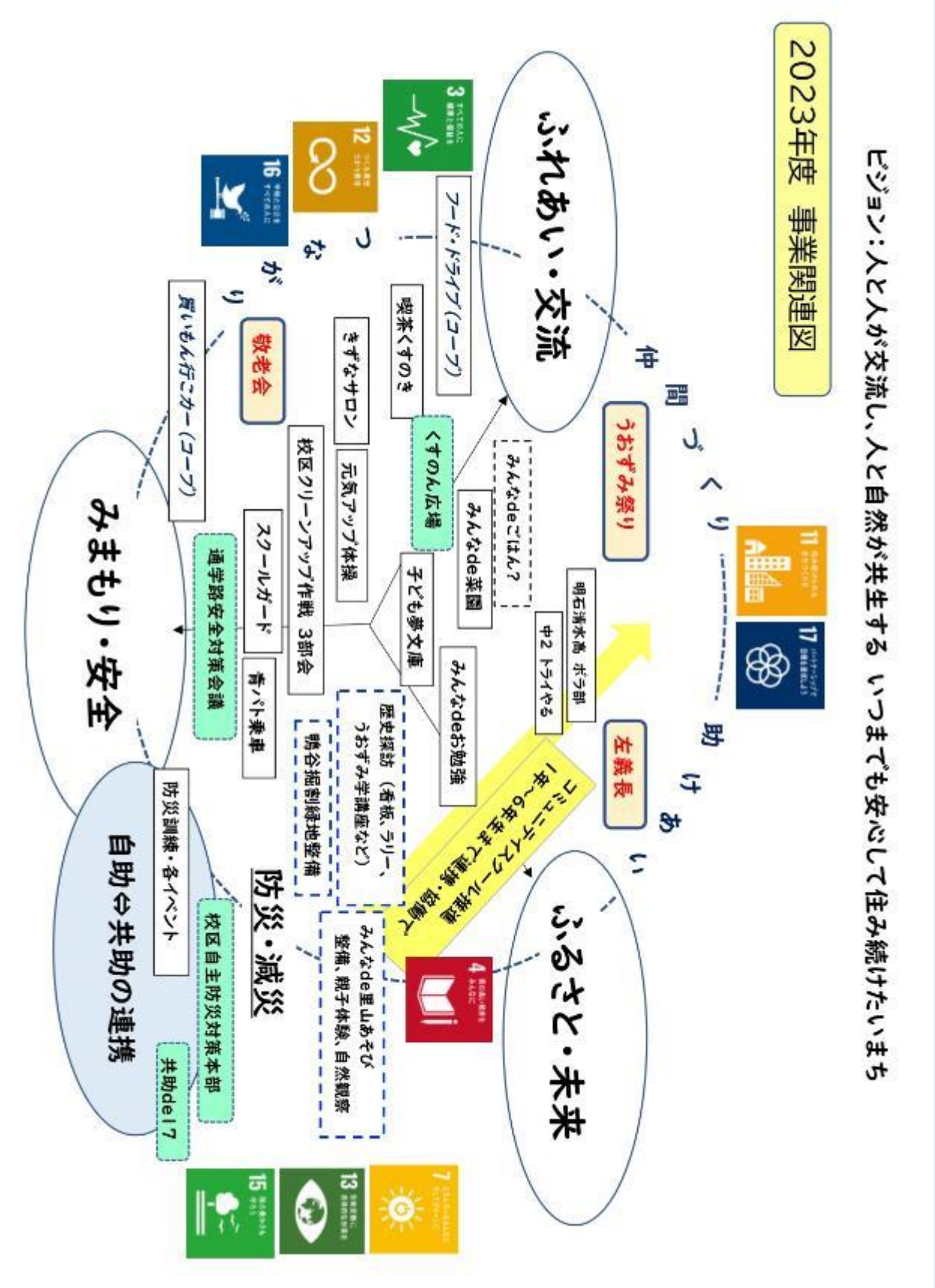
楽学交祭（2/3 オープンスクール）

家庭科
松小ありがとうプロジェクト

卒業式（3/21）

参考資料）魚住小校区：地域づくりから生まれる学びづくり

まち協さんが事業を考える上でも、コミュニティ・スクールの推進を位置づけ、子どもたちを **“地域の子どもは地域の宝”** と位置付けられています。そして「長い歴史・文化の残る地域の今、昔を知り、地域に愛着を持ち、地域に貢献しようとする人づくり」を学校と地域の共通テーマとして「人と人とが交流し、人と自然が共生する　いつまでも安心して住み続けたいまち」づくりを事業関連図として、デザインされています。



2023.4.20 作成

魚住小コミュニティ・スクール活動方針

魚住小学校　教育目標:「未来を生き抜く力の育成」
・予測不能な時代を生き抜くために必要な資質能力の育成
・新たな課題を自ら解決しようとする力の育成

魚住まちづくり協議会　ビジョン:
人と人が交流し、人と自然が共生するいつまでも安心して住み続けたいまち

総合的な学習（活用・探求）の共通テーマ:　～地域の子どもは地域の宝～
長い歴史・文化の残る地域の今、昔を知り、
地域に愛着を持ち、地域に貢献しようとする人づくり

重要なポイント:
学校と地域が情報を共有し、対等の立場で連携・協働しながら地域の子どもを育む

主たる活動母体:学校運営協議会（コミュニティ・スクール）
魚住小学校、魚住まちづくり協議会（協力団体含む）、PTA・保護者

学年ごとロードマップ（カリキュラム・マネジメント）:地域（まちづくり協議会）との連携活動について

知って
気づいて
考えて
動いて

学年 具体的テーマ	課題	活動内容	主たる連携団体
1年生 魚住の人（今・昔）	・地域との出会い、そして地域の昔の遊びを知る	・昔遊び名人になろう ・魚住昔話①	・校区高年クラブ
2年生 魚住の人・まち（暮らし）	・地域とつながり、より深く知る	・まち探検 ・野菜作りに一緒に挑戦 ・魚住昔話②	・歴史部会＆スクールガード ・夢文庫
3年生 自然豊かなまち魚住	・地域の宝、自然（金ケ崎公園）を再認識する	・地域を深く知る 年間4回の学習	・まちづくり協議会 自然環境チーム
4年生 自然の恵みを受け継ぐまち魚住 みんなの幸せ（福祉）	・農業（米作り）の暮らしや、ため池の歴史を知る ・多様な人とのつながり	・絵本17号池物語 ・県水利施設訪問 ・しめ縄つくり→左義長へ ・福祉体験	・まちづくり協議会 ・浜西高年クラブ ・まちづくり協議会
5年生 災害に強いまち魚住 ～みんなの安心・安全～	・防災について考える 生命を守る（自助・共助）	・マイ防災マップ作り →自宅周辺の調査 →家族の防災力アップ →校区防災訓練に参加	・まちづくり協議会 自主防災チーム スクールガード 自治会
6年生 幸せのまち 魚住のために （みんなdeまちづくり）	・まちの未来への提案	・まちの幸福論 →まとめを学校向け、地域向け発信→活動へ うおずみ祭りに参加	・まちづくり協議会 くすのん広場

その他、地域ボランティア
1.小学1年生（スタート支援）　生活習慣サポート隊　ながら見守り隊（SG登録）
2.夏場のプール実習の安全サポート隊　学習サポート（授業サポーター・出前授業）

おすすめブック
未来を生きる子どもたちを育むコミュニティ・スクールのイメージづくりに！！

コミュニティ・スクールのビジョンづくりに、手に取っていただけたらと思います。学校運営協議会委員さんや地域・保護者のみなさんにも是非読んでいただけたらと思います。

※ウィズあかし8階フリースペース入口【**つながる本棚hito-haco**】の「コミュニティ・スクールコーナー」にも置いてありますので、立ち寄られた際には手に取っていただけたらと思います。

「奇跡の学校　コミュニティ・スクールの可能性」（風間書房）
　学校や地域、保護者が目的やビジョンを共有し、「地域から信頼される学校づくり」に成功した山口県内の小中学校における事例が分かりやすく紹介されています。

「図説 コミュニティ・スクール入門」（一藝社）
　「なぜ、コミュニティ・スクールは必要なのか」を、「日本をとりまく危機的な状況」をはじめ「チーム学校」「地域学校協働本部」そして「三鷹市の小・中一貫校の事例」などの紹介をとおしてわかりやすく説明されています。

「地域学校協働のデザインとマネジメント」（学文社）
　地域学校協働の実践実装のための理論として、組織学習論やRV・PDCAサイクルなどが説明されています。コミュニティ・スクールの実践に向けての理論面で役立つのではと思います。

未来の学校づくり
　コミュニティ・スクール導入で「地域とともにある学校」へ
　（学事出版）
　なぜ、今、「地域とともにある学校」への転換が必要なのか。「未来の学校づくり」に必要な条件とその理由が分かりやすく説明されています。

まんがで知る未来への学び（全3巻）
まんがで知る教師の学び（全3巻）
まんがで知るデジタルの学び（全3巻）
　まんがで、わかりやすくこれからの時代の学びについて描かれています。

明石市情報

〇あかしSDGｓ推進計画
（明石市第6次長期総合計画）

〇第3期あかし教育プラン

〇明石市の
コミュニティ・スクールについて

〇明石のコミュニティ・スクール
Twitterページ

〇まちなびAKASHI

〇明石市教育大綱

〇第2次明石生涯学習ビジョン

〇コミュニティ・スクールだより
「コミコミスクスク」

〇明石のコミュニティ・スクール
YouTubeチャンネル

〇明石市学校園一覧

SDGs未来安心都市・明石
いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで
明石市教育委員会事務局学校教育課
Tel 078-918-5055 Mail gakkyo@city.akashi.lg.jp